

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アイフリーク ホールディングス  
 コード番号 3845 URL <http://www.i-freek.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理担当取締役  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 谷内 進  
 (氏名) 芦田 克宣

TEL 092-471-5211

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	818	△22.3	△27	—	△24	—	△32	—
26年3月期第3四半期	1,053	△11.2	△284	—	△276	—	△450	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 △32百万円 (—%) 26年3月期第3四半期 △453百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△2.93	—
26年3月期第3四半期	△44.20	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付けにて普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	747	△7	△7	—	△1.7	△1.14
26年3月期	913	22	22	—	2.0	1.59

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 △12百万円 26年3月期 17百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,037	△26.4	3	—	1	—	1	—	0.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	11,237,500 株	26年3月期	11,215,900 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	300 株	26年3月期	300 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	11,232,298 株	26年3月期3Q	10,197,021 株

(注)当社は、平成25年10月1日付けにて普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定し、26年3月期3Q期中平均株式数(四半期累計)を記載しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	9
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日銀による積極的な財政・金融政策等の効果による円安株高の定着を背景に、企業業績の改善と雇用情勢の好転の動きが見られ、全体として緩やかな回復傾向が続いておりました。しかしながら、急激な円安進行による物価上昇の影響による個人消費の低迷等により、引き続き先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループ（当社及び連結子会社）が関連するモバイルコンテンツ業界におきましては、携帯電話利用者のフィーチャーフォンからスマートフォン（以下、SPという。）への端末変更がよりいっそう進み、さらに、タブレット端末の利用者もモバイルキャリア各社の積極的な販促活動によって増加した結果、SP及びタブレット端末（以下、スマートデバイスという。）の利用者は増加傾向にあります。これらの要因により、インターネットサービス及びアプリケーションの利用、電子書籍の閲覧等、スマートデバイスによるコンテンツ利用シーンは更に拡大しております。

このような経営環境のもと、当社グループは、収益の中心であるモバイルコンテンツ事業のコミュニケーションコンテンツ領域（『デココレ』、『photodeco+』等）におきましては、SPでのサービス強化を進めてまいりました。加えて、ファミリーコンテンツサービス領域（『森のえほん館』）におきましては、企業向け電子絵本商品のメニュー強化を進めてまいりました。また、Eコマース事業におきましては、事業黒字化を最優先事項としつつ、今後の事業展開に向けた検討を進めてまいりました。さらに、グループの各事業部門の選択と集中をより強く推進し、経営資源の集約と財務基盤の増強を図るため、知育アプリ部門の事業譲渡を実施しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は818,509千円（前年同期比22.3%減）、営業損失は27,305千円（前年同期は284,881千円の営業損失）、経常損失は24,356千円（前年同期は276,512千円の経常損失）、四半期純損失は32,888千円（前年同期は450,713千円の四半期純損失）となりました。

各事業及び領域における業績の概況は、以下のとおりであります。

#### ① モバイルコンテンツ事業

当該事業を担う株式会社アイフリーク モバイルは、コミュニケーションコンテンツ領域とファミリーコンテンツサービス領域にて事業活動を行っております。

##### （コミュニケーションコンテンツ領域）

この領域におきましては、デコレーションメール素材提供サイト『デココレ』、写真加工アプリ『photodeco+』、カロリー管理アプリ『カロリナ』を提供しております。株式会社NTTドコモの「スゴ得コンテンツ利用者」、KDDI株式会社の「auスマートパス」など、モバイルキャリア各社が提供する定額コンテンツ配信サービスに当社のコンテンツが複数選定されており、ユーザーの継続利用を促進するために使いやすいユーザーインターフェースへの改善と追加機能の拡充等、各種取組を実施いたしました。

##### （ファミリーコンテンツサービス領域）

この領域におきましては、スマートデバイスのアプリストアであるApp StoreやGoogle Play、並びに、株式会社NTTドコモが運営する0歳から9歳向け知育サービス「dキッズ」へ月定額課金にて電子絵本約300冊が読み放題となる『森のえほん館』を提供しております。また、BtoBにおきましては絵本型ネイティブアド（タイアップ絵本）のプレミアム・パッケージをリリースし、電子絵本に興味がある企業様向け商品のメニュー強化と営業体制の強化を進めてまいりました。サービス開始後、初のクリスマスタイアップ企画として、株式会社カミオジャパン「ぜんまいじかけのトリュフ」、大日本印刷株式会社「アル★パカヨとゆる〜いなかまたち」、株式会社フジテレビジョン等複数社が主催する絵本コンテストの大賞2作品「泣けないサボテン」「みたいみたいみてみたい」をデジタル絵本として配信開始いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるモバイルコンテンツ事業の売上高は632,613千円（前年同期比2.3%減）、セグメント利益は142,229千円（前年同期比227.5%増）となりました。

#### ② Eコマース事業

当該事業を担う株式会社アイフリーク プロダクツ セールスは、美容・健康商材を中心とした商材の提供を行っております。

Eコマース事業におきましては、先般の薬事法の規制強化等の外的要因による業績悪化を挽回させるべく、抜本的なコスト構造の見直しを含めた事業改革を進めており、収益化に向けた取組みを進めてまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるEコマース事業の売上高は185,896千円（前年同期比52.5%減）、セグメント損失は10,480千円（前年同期は71,344千円のセグメント損失）となりました。

（注）各社の社名、製品名、サービス名は各社の商標又は登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

流動資産は、前連結会計年度末に比べて135,788千円(18.2%)減少し、609,300千円となりました。これは主として、現金及び預金が9,349千円、受取手形及び売掛金が108,957千円、その他流動資産が17,107千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて28,304千円(17.4%)減少し、133,940千円となりました。これは主として、有形固定資産が7,508千円、無形固定資産が9,516千円、投資その他の資産が11,280千円減少したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて1,457千円(25.0%)減少し、4,373千円となりました。

以上の結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて165,551千円(18.1%)減少し、747,615千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて102,044千円(16.4%)減少し、520,629千円となりました。これは主として、短期借入金が13,000千円増加したものの、買掛金が21,994千円、1年内返済予定の長期借入金が31,641千円、未払法人税等が39,521千円、その他流動負債が21,887千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて32,973千円(12.3%)減少し、234,556千円となりました。これは主として、長期借入金が29,844千円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて135,017千円(15.2%)減少し、755,185千円となりました。

純資産は、四半期純損失32,888千円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて30,533千円(133.0%)減少し、7,569千円の債務超過となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年11月7日に公表しております業績予想数値に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第2四半期連結会計期間において、連結子会社である株式会社アイフリーク モバイルは、連結子会社であった株式会社キッズスターを吸収合併したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上し、3期連続の営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。さらに、第2四半期連結累計期間において、貸倒引当金繰入額59,484千円を特別損失に計上したことにより、第2四半期連結会計期間において、33,468千円の債務超過の状態となりました。

この改善策として、営業利益を確保すべく当社グループは、経営と事業執行の役割を明確にすることによって、グループ全体の持続的利益成長を図るべく、事業部制から純粋持株会社制に移行し、外部企業との提携や事業再編など機動的な意思決定を可能とする体制を整えるとともに、徹底した固定費削減を実施しております。

また、当社は、連結子会社である株式会社アイフリーク モバイルの『なりきり!!ごっこランド』を中心とする知育アプリ部門を、クックパッド株式会社の子会社へ譲渡し、当第3四半期連結累計期間において、事業譲渡益59,020千円を特別利益に計上しております。

これにより、当第3四半期連結会計期間における債務超過の状態は7,569千円と改善いたしました。解消するまでには至りませんでした。

しかしながら、「4. 四半期連結財務諸表 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (重要な後発事象)」に記載のとおり、第4四半期連結会計期間において、第11回新株予約権の割当先であるHong Kong Wealthy Future Investment Co., Limitedの新株予約権の一部権利行使により、55,500千円の資金調達を実現いたしました。さらに、グループ全体の経営資源の配分を速やかに最適化し、グループの中核事業であるモバイルコンテンツ事業へ経営資源を集約し、当社グループの企業価値の最大化を図ることを目的として、Eコマース事業を担っております株式会社アイフリーク プロダクト セールスの保有株式の全てを同社の元取締役へ譲渡し、Eコマース事業から撤退することを決議し、平成27年2月1日に譲渡しております。

これらの施策により、平成27年3月期においては、債務超過は解消する見通しであります。

なお、事業資金面につきましても、取引金融機関と良好な関係にあり、当面の事業資金の確保はなされていることから、少なくとも今後1年間の資金繰りに重大な支障をきたすような状況にはありません。

以上のことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	435,274	425,925
受取手形及び売掛金	283,247	174,290
有価証券	14	14
商品	19,788	16,197
仕掛品	1,920	227
原材料	16,631	14,894
その他	62,887	45,779
貸倒引当金	△74,675	△68,028
流動資産合計	745,089	609,300
固定資産		
有形固定資産	39,097	31,589
無形固定資産	49,448	39,932
投資その他の資産	73,700	62,419
固定資産合計	162,245	133,940
繰延資産	5,831	4,373
資産合計	913,166	747,615
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	37,636	15,642
短期借入金	367,000	380,000
1年内返済予定の長期借入金	79,792	48,151
未払法人税等	39,521	—
その他	98,723	76,835
流動負債合計	622,673	520,629
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	50,780	20,936
資産除去債務	6,935	6,988
その他	9,813	6,631
固定負債合計	267,529	234,556
負債合計	890,203	755,185
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	603,879	605,007
資本剰余金	603,885	605,012
利益剰余金	△1,190,195	△1,223,083
自己株式	△34	△34
株主資本合計	17,534	△13,098
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	298	237
その他の包括利益累計額合計	298	237
新株予約権	5,130	5,291
純資産合計	22,963	△7,569
負債純資産合計	913,166	747,615

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	1,053,116	818,509
売上原価	750,780	425,886
売上総利益	302,335	392,623
販売費及び一般管理費	587,217	419,928
営業損失(△)	△284,881	△27,305
営業外収益		
受取利息	1,215	31
受取配当金	2,921	3,300
為替差益	3,275	0
違約金収入	2,508	—
貸倒引当金戻入額	—	6,137
その他	4,915	2,816
営業外収益合計	14,836	12,285
営業外費用		
支払利息	4,085	3,326
社債発行費償却	1,457	1,457
新株予約権発行費	—	2,000
その他	924	2,552
営業外費用合計	6,467	9,336
経常損失(△)	△276,512	△24,356
特別利益		
新株予約権戻入益	1,574	—
事業譲渡益	—	59,020
特別利益合計	1,574	59,020
特別損失		
投資有価証券売却損	5,892	—
関係会社整理損	57,087	—
過年度決算訂正関連費用	79,044	—
特別退職金	1,697	1,038
貸倒引当金繰入額	—	59,484
その他	1,007	—
特別損失合計	144,730	60,523
税金等調整前四半期純損失(△)	△419,668	△25,859
法人税等	31,045	7,028
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△450,713	△32,888
四半期純損失(△)	△450,713	△32,888



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△450,713	△32,888
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△149	△60
為替換算調整勘定	△2,410	—
その他の包括利益合計	△2,559	△60
四半期包括利益	△453,272	△32,948
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△453,272	△32,948

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業	決済サービス 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	647,535	391,030	14,550	1,053,116	—	1,053,116
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	647,535	391,030	14,550	1,053,116	—	1,053,116
セグメント利益又は 損失(△)	43,428	△71,344	△46,640	△74,556	△210,325	△284,881

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

決済サービス事業については、平成25年10月15日にその保有株式の全てを第三者に譲渡して同事業から撤退し、前第3四半期の期首において連結除外しております。

したがって、上記には前第2四半期連結累計期間までのセグメント損益を記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	632,613	185,896	818,509	—	818,509
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	632,613	185,896	818,509	—	818,509
セグメント利益又は 損失(△)	142,229	△10,480	131,749	△159,054	△27,305

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、前連結会計年度において、決済サービス事業からの撤退を行ったことにより、当第1四半期連結会計期間から報告セグメントの「決済サービス事業」を廃止しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

1. 関係会社株式の譲渡及びEコマース事業の撤退

平成27年1月30日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社アイフリーク プロダクツ セールスの株式を、同社の元取締役へ譲渡し、Eコマース事業から撤退することを決議いたしました。

(1) 譲渡する事業の内容及び規模

当社のEコマース事業は、インターネット通信販売、美容商材卸売販売、食品商材卸売販売を行っております。本事業は、当社の連結子会社である株式会社アイフリーク プロダクツ セールスにて実施しております。

(単位：千円)

	Eコマース事業 (a)	平成26年3月期連結実績 (b)	比率 (a / b)
売上高	502,974	1,410,561	35.66%
売上総利益	37,916	423,552	8.95%
営業利益	△126,118	△375,380	—
経常利益	△177,478	△384,423	—

(2) 譲渡の時期

取締役会決議日 平成27年1月30日  
譲渡契約締結日 平成27年1月30日  
株式譲渡日 平成27年2月1日

(3) 譲渡する相手先の名称

氏名 橋本 伸也  
所在地 東京都新宿区  
上場会社と当該個人の関係 当該会社の元取締役

(4) 譲渡株式数、譲渡価額及び譲渡前後の所有株式の状況

異動前の所有株式数 800株 (所有割合：100%)  
譲渡株式数 800株 (譲渡価額：3百万円)  
異動後の所有株式数 一株  
譲渡価額の算定根拠 公平性、妥当性を確保するため、第三者評価機関に株価算定を依頼し、その結果を踏まえ協議し算出したものであります。

(5) 当該事象の損益に与える影響

本件株式譲渡に伴い、当社はEコマース事業より撤退するため、当社の平成27年3月期連結業績に与える影響については、現在精査中であります。

2. 第11回新株予約権の行使による増資

当社が平成26年3月14日に発行した第三者割当による第11回新株予約権につき当第3四半期連結会計期間終了後、本四半期決算短信提出日までの間に権利行使がなされており、その概要は以下のとおりであります。

新株予約権行使の概要

① 新株予約権の名称 第11回新株予約権 (第三者割当)  
② 行使価額 1株につき金185円  
③ 行使新株予約権個数 6個  
④ 行使者 Hong Kong Wealthy Future Investment Co., Limited  
⑤ 交付株式の種類及び株式数 普通株式 300,000株  
⑥ 行使価額総額 55,500,000円  
⑦ 増加する資本金の額 28,605,000円